

インカレショート2000 レポート

村越真・木村佳司

2000年11月12日、琵琶湖の西岸に位置する滋賀県高島町にて、2000年度日本学生オリエンテーリング選手権ショートディスタンス競技大会が開催された。現在日本で行われている唯一のショート競技の選手権である。

700名が参加する熱戦の中、午前の予選そして午後の決勝を勝ちぬいて2000年度のチャンピオンになったのは、男子・紺野俊介（早稲田大学4年）、女子・小林啓恵（東北大学）であった。

男子選手権決勝結果

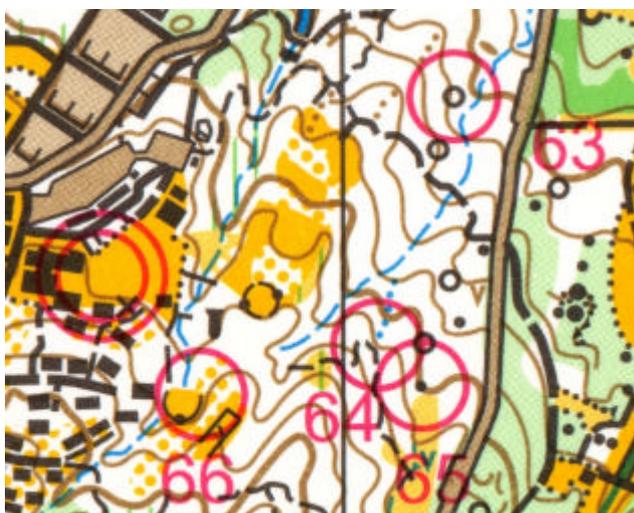
1 紺野俊介	（早稲田大学4）	0:19:49
2 加藤弘之	（東京大学3）	0:21:41
3 猪飼 雅	（金沢大学4）	0:22:46
4 安井真人	（早稲田大学4）	0:23:09
5 小泉成行	（筑波大学3）	0:23:34
6 蔵田真彦	（東京工業大学2）	0:24:00

女子選手権決勝結果

1 小林啓恵	（東北大学4）	0:27:27
2 上松佐知子	（筑波大学4）	0:28:15
3 古澤裕子	（広島大学2）	0:29:53
4 番場洋子	（京都大学3）	0:30:19
5 下村淳子	（東北大学4）	0:30:40
6 澤田留己	（京都女子大学2）	0:31:41

紺野俊介は昨年度に続いて連覇を果たした。紺野は、その後の関東インカレでも優勝、来年世界選手権の選考会出場資格も獲得している。今期学生として圧倒的な力を見せつける紺野は、インカレショートの勝利をどう捉え、またインカレにどう臨もうとしているのだろうか。

一方女子は、塩田や上松ら筑波大学のライバルを抑えて小林啓恵（東北大学4年）が優勝した。インカレ優勝後体調不良などで、ユニバー遠征はいま一つの成績だったが、ここの強さは健在である。第1コントロールでの大ミスの後、どんなレース展開で逆転勝利をものにしたのだろうか？インカレショートチャンピオンである、二人にインタビューした。（インタビュアー：村越真）



インカレショートで使用したO-map「ガリバーの森」
観客は会場横の広場まで行って、森の中を走る決勝ランナーを応援することができた。

紺野俊介



レース内容はかなり良かったです。自分的には、自分のレースができれば順位は着く、入賞が最低ラインというのがあったんです。予選ではいいレースでトップだったので、予選の内容+ でできれば優勝できるかなと思っていました。

「優勝」という意識はあまりなかったですね。むしろ予選の方が緊張しました。4年生だったし、たまにいるじゃないですか、予選で失敗する選手が。実際僕も去年は予選で失敗して、あとはがむしゃらにやるだけと思って走ったんですけど、今年はその点では気持ち的にも楽でした。予選の延長でと思えたんで。

2分という差ですか？差は思ったより、ついたかなという感じはしますが、あまり意識はしてません。思ったより他の人が遅かったということかな。高橋（善徳）さんが試走で、前半は僕よりも早かったんで、もっと出せたかなというのがあります。まあレース結果には納得はできたかな。

関東インカレでは守りに入っちゃったというのはありますね。勝ちを意識したって訳じゃないんですが、最近長いレースになると集中力が切れる気がする。60分くらいのレースなので、なるべく集中してというのが、結果として守りになっちゃった。

ルートチョイスでもダメな方を選んでいきますね。ロングレグで思わず尾根を越えてしまった。トップの人（併設のチャレンジ）よりも3分近く遅いです。最後まで出戻ったりしている。細かいところでも手続きが遅いんです。ミドルレグはいいんですけど、ショートやロングのレグ

での手続きが遅いですね。

距離が長くなると遅いというのはインカレに向けての課題だと思います。去年のインカレでも終盤くらいからミスってます。60分くらいでの集中力が課題なんです。プランニングのまずさもあるかもしれませんが。最後のインカレだし、去年はとれなかったのは個人戦だけなんで。そういう意味ではサークル内に刺激してくれる奴がいるんで…。

課題ははっきりしているんですけど、解決は難しい課題ですね。道走りのレグのあと、不用意にアタックしたり。1年生に指導している割には指導していることが自分でもできてないなって。この冬は指導を通して、自分を見つめなおすいい機会だと思っています。

インカレ後のことはあんまり考えていません。まずはインカレです。そのあとはゆっくり休むのもいいかなと。(世界選手権への予備セレは通ったので)本セレは出ると思いますが、今は考えられません。インカレもあるし、職についた後のことなので。

小林啓恵



1ポで大ミスをしています。予選で平らな土地だったので、頭が切り替わってなかった。斜面だったので、落ちないようと思って走っていったら登り過ぎてしまって。

そのあと一瞬分かったようには思ったんですが、腑に落ちないものがあったって、やっぱり間違っていました。その後明らかに傾斜が違っている、おかしいと思って考えて、ようやくどこにいるかわかりました。

ダメだ、優勝できないという気持ちよりも、なんで初めから丁寧にやらなかったんだらうという後悔の気持ちの方が大きかったですね。最初のミスはプランが甘かったせい

もあったので、次のコントロールも今度はしっかりやろうと思ったのですが、またやってしまった。コントロールのある尾根に取りついた時、すぐ下にコントロールがあったらしいんですけど、見えなかったんで、上に登ったんです。しばらくいって尾根も曲がりがあって気がつきました。なんで、またやる～！って。その後3へのルートを見ると、これで結構焦ってたんだと思います。オープンを見ながら川を三つも越えてしまっています。その後は確実なルートが取れたですけどね。

いいレースをして楽しみたいというのがあったんですが、こんなレースになっちゃって優勝しちゃっていいんだらうか、いけないよなという思いはありますね。まあみんな最初のところとか、最後の園地で迷ったみたい。

ショートの前選はいい感じ。決勝もつぼってはいるけどそこそこ走れました。でも最近トレーニング不足か、体力が今一つです。長いレースではそう感じます。それと、序盤でミスってばかり。もうちょっと初めから集中してレースができるようにしたいですね。注意なくちゃと思ってやっても、それでももう一步保険が足りないようです。このあたりがインカレへの課題なんだな、と思います。

インカレショートを運営して

日本学連理事 木村佳司

インカレショートも8回目を数え、もう秋の学生のビッグイベントとして定着してきました。特に今回はインカレショートがはじめて関西地区で開催され、関西在住のオリエンテリング愛好家の参加も多く、はじめてインカレショートを観た人も多かったと思います。

大会は学生選手権を主体としたものですが、選手権に参加しない学生や、一般オリエンテリング愛好家も競技に参加できますし、観戦も楽しめるイベントでした。

ショート種目ではウイニングタイムが25分程度に設定されているため、タフにレースを進めるより、ミスを抑え素早くレースをこなしてゆくことが重要となります。この出来いかんでは大金星の活躍も夢ではないし、一発撃沈に終わることもあり得るわけです。男子でいうと午前中の予選レースには180名が参加しますが、午後のA決勝に進出できるのはわずか36名、そのスタート順も予選の成績の良かった選手は最後にスタートしますので、ゴールでは次々とコースタイムが更新されていきます。これを大型掲示板や放送で演出するので、いやがうえにも盛り上がる仕組みとなっています。このため参加する選手にも応援する側にも非常に人気の高いイベントとなっています。

しかし、こうした高度な運営をささえているのは学生OBたちの熱意と工夫です。どの大会でもそうですが、事前の地道な準備と、当日のハードな作業をこなすのは、それなりの情熱が必要なのです。そしてそれ以前に、地元の協力がなくては大会自体が成り立ちません。

これからのインカレショートは選手権としての競技性を確保しつつも、大会を開催させて下さった地元への還元や、スリムな運営による採算性の確保と役員の方の精神面への負担の軽減などを目指し、さらなる進歩をとげてゆきたいと思っています。

来年のインカレショートは11月24日(土)石川県加賀市で開催されます。翌日は福井県にて東日本大会が開催されます。その間は15kmの距離。多数の参加をお待ちしています。